

# 魅力的なまちづくり

動物園は、昨年の秋開園80周年を迎えました。これまで多くの市民の皆様へ憩いの場所として愛され、まいりましたが、近年は「動物福祉」に取り組む施設として、全国的に注目され、年間20万人以上の来園者を集めています。



大牟田市動物園

開園80周年を迎えた昨年10月1日、動物園内に新たな施設として、「ともだちや絵本美術館」を開館しました。絵本作家の原画を間近に観ることができるとともに、読み聞かせの部屋や授乳室、休憩室を備えています。館内は子ども達が楽しくなるしかけがいっぱいで明るく楽しい空間になっており、開館後多くの方々に訪れていただいています。



絵本美術館テープカットの様子

全国に先駆け、「認知症の人とその家族を地域全体で支え見守るまちづくり」を進める大牟田市は、人のいのちはもちろんのこと、動物のいのちも大切にしやすいまちです。動物園や絵本美術館を舞台に、おおむたの子ども達が心豊かで感性に優れた青年に成長できるよう、市民の皆様とともに育んでまいりたい

と思っています。

そして、令和4年、いよいよ新総合体育館（仮称）が着工します。2年後の竣工を目指して、地域の皆様の理解も得ながら安全に工事を進めてまいります。

新しい体育館は、スポーツを「観る」「する」「支える」に着目し、多様な利用者の視点に立ち、すべての人が使いやすい空間となるよう計画を進めており、約1,500席を超える観客席備え、トップレベルの公式戦の開催が可能となるアリーナ、トレーニングルームをはじめ多様なスポーツに対応した施設などを整備する予定としております。



新体育館北東パース図



新体育館北東鳥瞰図



新体育館北西パース図



新体育館内観パース図

これにより、全国レベルの競技大会の開催はもちろんのこと、障がい者スポーツ、市民の健康づくりなど、様々なスポーツを通じて市民に愛される施設にしたいと考えています。さらには、各種団体の全国大会や展示会などコンベンションにも活用できる可能性を持っています。

また、新総合体育館の建設に合わせ、体育館跡地への芝生広場の整備、延命公園お花見広場・展望の丘の整備など延命公園全体の整備も進めます。延命公園が、明るく美しい市民の憩いと健康づくりの拠点となり、子どもから高齢者、そして障害のある方々、誰もが安心して安全に、楽しく利用していただける公園にしていくこととしております。

## 最後に

将来を担う子どもたちやお孫さんたちが、このまちで安心して仕事をしながら生活できる未来を目指し、「若者が夢をもって働くまちづくり」、「子育て世代に魅力的なまちづくり」、「安心して元気に暮らせるまちづくり」、これらの3つのまちづくりを今後も推進してまいりたいと考えております。

ふるさと「おおむた」の未来づくりを目指して、全力を尽くしてまいりますので、引き続きのご支援を心よりお願い申し上げます。



大牟田市長

# 関よしたか 市政報告

Vol.1

関よしたか後援会事務所

〒836-0065 大牟田市三川町4-120  
TEL 0944-88-8739



後援会公式  
webサイト



後援会  
facebook

## おおむた 未来のまちづくりに向けて

皆様おひとり、お一人のご支援により、市長に就任させていただき、2年余りとなりました。改めて、これまでのご支持、ご支援に心より感謝申し上げます。

この2年間、「新型コロナウイルス感染症対策と地域経済の活性化」及び「災害からの復旧・復興と災害に強いまちづくり」を最優先課題とし、全力を挙げて取り組んでまいりました。

### 併せて、公約に掲げた

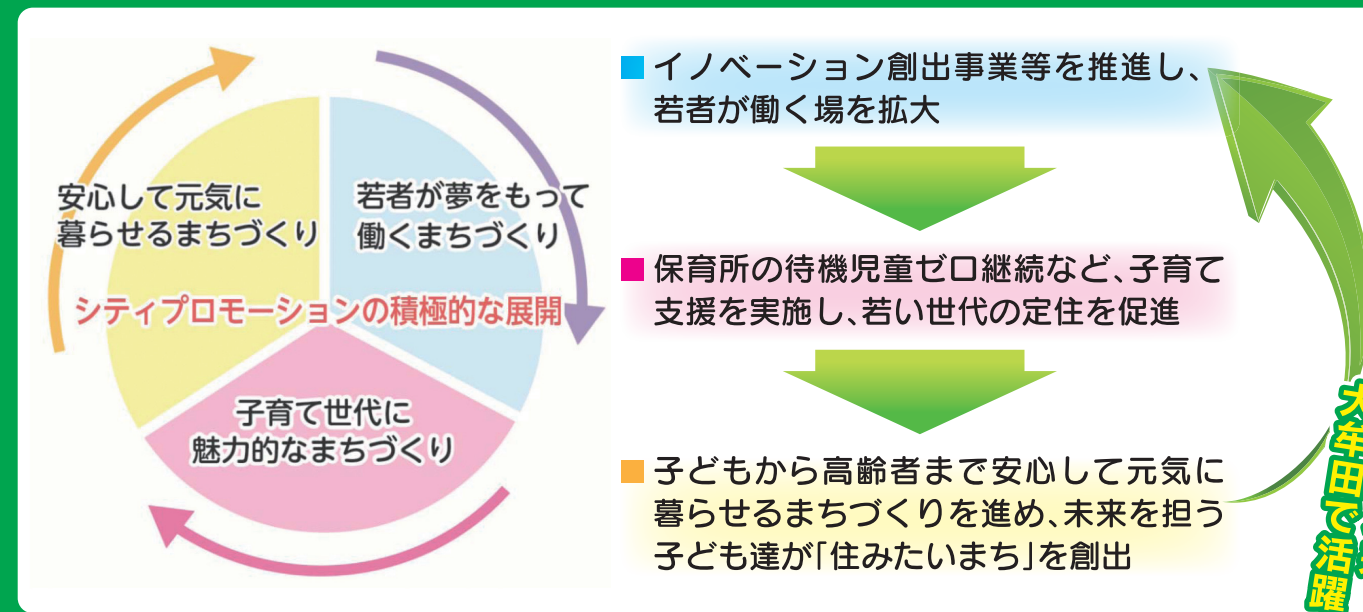
若者が  
夢をもって働く  
まちづくり

子育て世代に  
魅力的な  
まちづくり

安心して  
元気に暮らせる  
まちづくり

の3つのまちづくりを推進しています。

### ■ 3つのまちづくりで生み出す好循環





# 新型コロナウイルス感染症対策と地域経済の活性化

昨年春に始まった新型コロナウイルス感染症の感染拡大につきましては、いまだ収束を見通すことができず、感染拡大の長期化により、市民生活や社会経済に大きな影響を与えています。

これまで、公共施設をはじめ、医療機関や高齢者施設、小中学校、幼稚園や保育園等における感染防止に向け様々な対策を講じるとともに、感染予防に向けたワクチン接種につきましては、医師会をはじめ関係機関



の協力を得ながら取組みを進め、接種を希望される市民の皆様への2回接種をほぼ終えることができました。

現在、3回目接種を進めています。今後とも気を緩めることなく感染対策と経済の活性化に取り組んでまいります。

あわせて、中小企業に対する国・県給付金への市独自の上乗せ、飲食店等に対する家賃や感染症対策への支援など、事業継続の支援に取り組むとともに、子ども達の学習機会の確保のため、ひとり一台のタブレット端末の導入や自宅でオンライン学習ができる環境整備を進めてまいりました。

今後ともコロナ対策にしっかり取り組んでまいります。



ワクチン接種の様子

# 災害からの復旧・復興と災害に強いまちづくり

令和2年7月6日の午後、強くなった雨はこれまで経験したことのない豪雨となり、大牟田のまちを襲いました。100ミリ近い雨が2時間以上降り続き、市内の道路は至るところで冠水し、家屋の浸水、がけ崩れ等甚大な被害となりました。

改めて、お亡くなりになられた2名の方のご冥福をお祈りするとともに、被災された市民の皆様や事業者の皆様、さらに今なお避難生活を余儀なくされている皆様に心よりお見舞い申し上げます。

災害を受けて、災害見舞金やくらし支援金の支給をはじめ、被災により車両を廃車された方への支援金の支給、住宅修理支援金への市独自の上乗せ、さらには市営住宅や民間借り上げ住宅の提供など、被災された皆様への支援を行ってまいりました。また、事業者の皆様に対しては、国や県の支援制度に市独自の上乗せを行うとともに、支援金申請のための説明会や手続きの支援に取り組んでまいりました。



当時：自民党岸田政調会長  
(現：総理大臣)  
の視察対応



赤羽国土交通大臣や  
小川知事(いずれも当時)  
などの視察対応

災害から1年半以上たった今でも、避難生活を送られている市民がいらっしゃいます。引き続き、地域支え合いセンターの相談員が訪問し、各種支援制度の周知や支援機関との連携により、生活再建に向けた総合的な支援を継続してまいります。

あわせて、私たちの大牟田をより災害に強いまちにするための取組みを進めています。

発災直後から被災箇所の応急復旧を行うとともに、河川や水路の浚渫等に取り組んでまいりました。特に、大きな被害を受けたみなと校区については、排水路の拡張を行うとともに、三川ポンプ場の耐水化と機能増強を図りました。



三川ポンプ場の耐水化と能力増強

今年8月の大雨では、8月の平年雨量の4倍、年間降水量の半分以上の雨が降り続けましたが、これらの浸水対策や防災・減災対策により少しでも被害を軽減できたのではないかと考えています。

しかしながら、本格的な復旧、復興に向けては、いまだ道半ばでございます。

ふるさと大牟田が、「災害に強いまち」として、安心安全で発展することを目指し、引き続き全力を尽くしてまいります。

# 将来を見据えた産業振興

大牟田は、ものづくりのまちとして発展してまいりました。

かつては石炭産業を中心に発展し、現在も化学産業を中心に製造出荷額3千億円(県内第7位)を誇る産業のまちです。今後に向けても、例えば、電気自動車やICT製品に欠かせない材料を提供している企業では、50億円以上の投資が計画され、メガネレンズ材料を提供している企業では、生産能力の増強が決定されるなど、大型投資が予定されています。

また、重要港湾三池港は、国際コンテナ定期航路を有する国際物流拠点となっており、有明海沿岸道路の延伸とともに、貨物の取扱量が着実に増加しています。



三池港

これらに加え、来年には中心市街地に「イノベーション拠点」が誕生します。

この拠点では、IT企業等の積極的な誘致を図るとともに、分野の垣根を越えた多くの人・企業が交流し、新たな連携やチャレンジが生まれるよう、ビジネスマッチングや交流イベント等を展開してまいります。

イノベーション拠点 制作イメージ1



スタジオ  
(キッチン付) ストリート

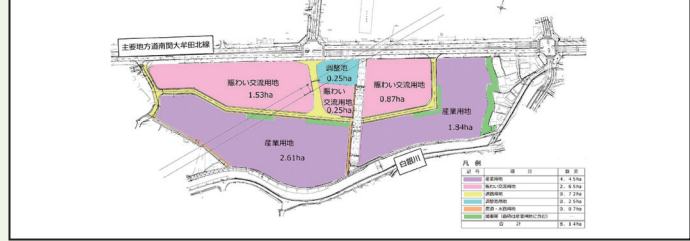
イノベーション拠点 制作イメージ2



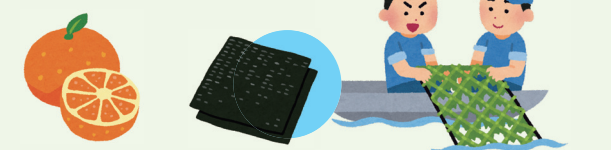
新大牟田駅前では、いよいよ新たな産業団地の整備を開始しており、令和5年度には造成を終え、分譲を開始する予定としております。

駅前にふさわしい最新の工場等の誘致による新たな雇用の創出はもとより、商業・サービス施設の集積によるにぎわいを創出し、新大牟田駅周辺がさらに魅力ある交通結節点となるよう、整備を進めてまいります。

土地利用計画図



また、有明海の家産や上内のみかんをはじめ、お米、ぶどう、たけのこなど大牟田には、安全でおいしい農林水産物が溢れています。これらの生産継続と発展に向けて、ほ場・水路や船溜まり等の整備、さらには少ない労力で効率的に耕作等できるスマート農業の推進に取り組んでまいります。併せて、後継者の育成についても近隣市町やJAと協力しながら取り組み、農林水産業の振興を図ってまいります。



# 子育て支援と教育環境の充実

「子育て世代に魅力的なまちづくりを進めていくためには、安心して出産・子育てができる環境づくりとともに、特色ある教育環境の充実が重要であると考えています。

このため、保育所待機児童ゼロを今後も継続していきますとともに、支援員の確保と受け皿の拡大を柱とする「学童保育所の待機児童ゼロに向けたパッケージ」を推進してまいります。

また、本市における小・中・高・有明高専・帝京大学などの充実した教育環境を、本市の優れた地域資源と捉え、現在、本市のSDGs/ESD、英語教育などの特色ある教育の更なるブランド化を図るとともに、ICTを活用した先進的な教育環境の提供や、小中一貫校制度の導入さらには夜間中学開設に向けた準備などを、教育委員会と連携して、取り組んでまいります。

